

Ⅱ．必修化後の全国実施状況調査（柔道・ダンス）

横浜国立大学 非常勤講師
藤井 敬子

- I．調査の概要
- Ⅱ．学校体育担当指導主事の調査結果
 - 1．対象者の属性
 - 2．ダンスの指導法全般に対する意識
 - 3．ダンス授業の指導実態
 - 4．柔道授業の指導実態

I．調査の概要

1．調査の目的

各都道府県の学校体育担当指導主事における「武道（柔道）」「ダンス」領域の指導状況を把握・分析することにより、「武道（柔道）」「ダンス」領域の成果と課題を検証し、その改善を図る。

※指導主事：都道府県及び市町村の教育委員会に置かれる専門的職員で（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第19条第1項、第2項）、教育公務員特例法上の専門的教育職員に位置づけられている

2．調査の名称

平成29年度武道等指導充実・資質向上支援事業・事業

「柔道・ダンスの指導状況調査と課題解決の為の指導のあり方」（以下「スポーツ庁委託29」という。）

3．調査対象・方法

1）各都道府県の学校体育担当指導主事

平成2017年8月30日に開催された、全国都道府県・指定都市教育委員会学校体育担当指導主事研究協議会に出席された指導主事94名にその場で実施、回収した。

4．分析の方法

1）統計ソフト IBM SPSS Statistics22にて、調査項目の単純集計を行った。

2）比較分析：次の資料も比較資料として使用。

①『平成26年度文部科学省委託事業 武道等指導推進事業（武道等の指導成果の検証）中学校における柔道・ダンスの指導状況等の調査』（平成27年3月）』の第1章 III．中学教員の調査結果（以下、「文科委託26」という）。

対象者：全国の中学校体育教員255名。

②『平成27年度文部科学省委託事業 武道等指導充実・資質向上支援事業 ダンス領域を实践するうえでの成果と課題の把握並びにその解決策の為の方策』（平成28年3月）』の第1章 2. 教員（全国）の調査結果（以下、「文科委託27」という）。

対象者：全国の中学校体育教員235名である。

詳細については、高橋和子オフィシャルブログの報告書 <http://kazuko-ynu.jp/report> をご参照ください。

3) 質問項目の分析

柔道とダンスの指導状況、並びに、体育授業等に関する 42 項目の質問紙調査（巻末資料）を行った。対象とした領域は「柔道」「ダンス」である。特に武道の中でも「柔道」のみの調査に絞ったのは、柔道を学校選択している中学校が多いことと、怪我などへの配慮も含めた指導方法が課題になっているためである。

問 14「最近の健康状態について」は、体育やスポーツ、ダンスによって回復力を得られるという仮説のもと、質問項目を設定したが、本調査は「柔道・ダンス」領域の指導状況を把握が主目的であるため、今回は分析を行わないこととした。

また、問 17 の「昨年研究授業を行った」については、調査対象が指導主事であるため、今回分析を行わないこととした。

さらに、ダンス領域において「現代的なリズムのダンス」は「リズム系ダンス」と表記している。

II. 学校体育担当指導主事の調査結果

「スポーツ庁委託 29」についての単純集計結果は、巻末に入れてある。また、「スポーツ庁委託 29」、「文科委託 27」、「文科委託 26」の比較を行った項目については、本文中に図を入れ、考察を行った。考察は「斜字」で表記した。

1. 対象者の属性

有効数は学校体育担当指導主事 94 名である。

(1) 学校種（問 1）

学校種の内訳は、小学校 35 校 (37.2%)、中学校 33 校 (35.1%)、高等学校 (25.5%)、その他 2 校 (2.1%) である。

(2) 対象の学校規模（生徒数）（問 2、問 3、問 4）

学校規模の内訳は、小規模校 27 校 (28.7%)、中規模校 37 校 (39.4%)、大規模校 22 校 (23.4%)、無回答 8 校 (8.5%) であり、男子生徒数、女子生徒数の割合も、学校規模の割合とほぼ同じである。

(3) 教師歴（年数）（問 6）

教師歴は、1～5 年が 1 名 (1.1%)、6～15 年が 26 名 (27.7%)、16～25 年が 55 名 (58.5%)、26 年以上が 11 名 (11.7%) であり、40 代がほぼ 6 割を占めていると推察される。

(4) 記入者のダンス経験・指導経験・得意度（問 7、問 8、問 9）

ダンス経験がある者は 16 名 (17.0%)、指導経験がある者は 66 名 (70.2%) である。

ダンスの得意度について「得意」「やや得意」と答えた「得意群」は、21 名 (22.3%) である。ダンス経験がある者の割合と得意群の割合には大きな差があり、得意でなくてもダンス授業をしていることがわかる。また、自身のダンス経験の有無にかかわらず、ダンス授業は指導していることがわかる。

(5) 記入者の柔道経験・指導経験・得意度（問 10、問 11、問 12）

柔道経験がある者は 37 名 (39.4%)、指導経験がある者は 48 名 (51.1%) であり、自身の柔道経験が指導の要因になっていると推察される。

柔道の得意度において「得意」「やや得意」と答えた「得意群」は、43名(45.8%)である。柔道経験がある者の割合と得意群の割合は、ほぼ同率である。

ここで、ダンスと柔道を比べてみると、自身の経験が多い方は柔道であり、経験の有無にかかわらず指導しているのはダンスである。また、「経験はないが指導する予定もない」と応えたのは、ダンスは18名(19.1%)、柔道で43名(45.7%)であることから、柔道は経験がないと指導につながりにくいことがわかる。このことから、ダンスは誰でもが指導できる領域とも考えられる一方で、柔道の実技指導には自身の経験が大きく影響していると考えられる。

2. ダンスの指導法全般に対する意識

以下は、有効数94名のうち、ダンス授業の経験がある学校体育担当指導主事66名の集計結果である。

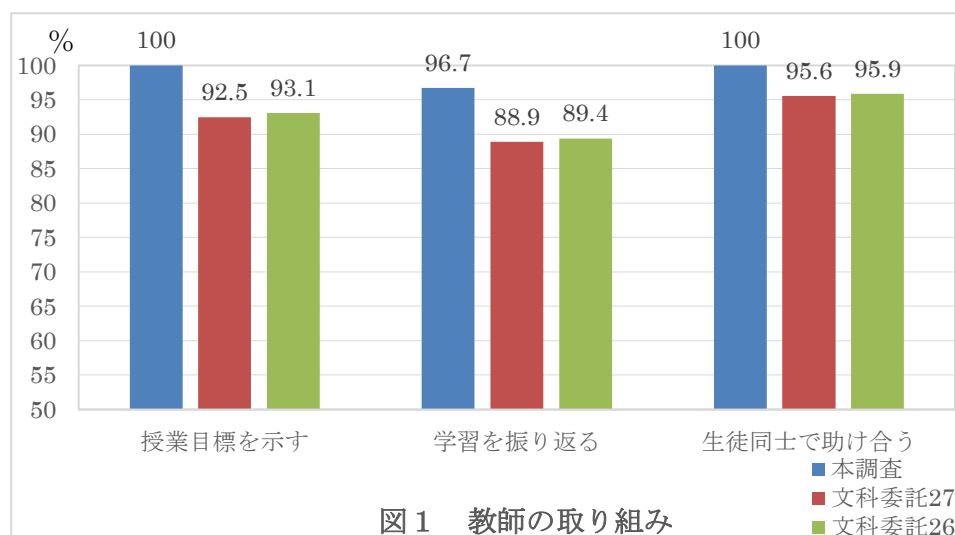
(1) 教師の取り組み(問14、問15、問16) (図1)

「ダンス授業の冒頭で授業目標を生徒に示している」と答えたのは62名(100%)である。「ダンス授業の最後に学習の振り返りをしている」と答えたのは59名(欠損値5名)(96.7%)である。

「文科委託26」では「授業目標を生徒に示している」は93.1%、「振り返りをしている」は89.4%、「文科委託27」では「授業目標を生徒に示している」92.5%であり、「振り返りをしている」は88.9%である。

「生徒同士で助け合うことを大切にしている」と応えた教師は62名(欠損値4名)(100%)と全員であった。「文科委託26」の95.9%、「文科委託27」の95.6%と比べ本調査は高い値を示した。

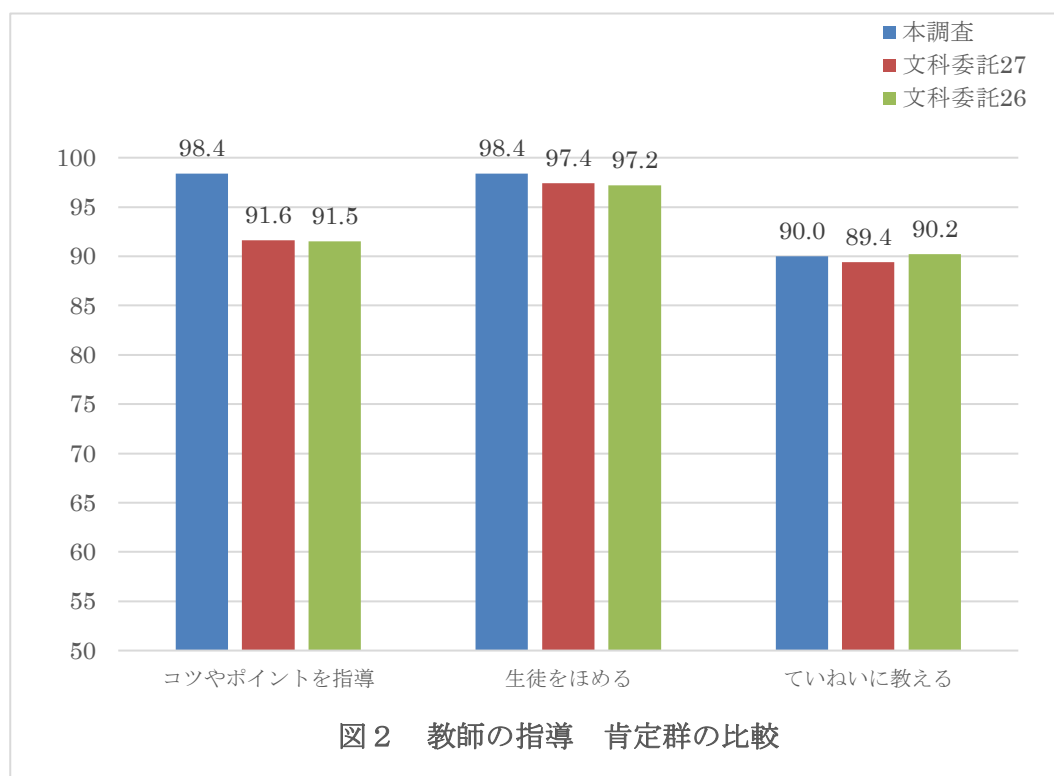
今回、全てにおいて高い値を示した。授業の初めで目標を示し、授業の最後に学習の振り返りを行うことが、定着していると言える。今回は、学校体育担当指導主事を対象としたために、肯定的な回答であったと考えられる。また、「生徒同士で助け合うことを大切にしている」においては、ダンス授業はグループ学習の形態が多いために、生徒同士の助け合い(学び合い)を重視していると、当然のように考えているのではないだろうか。



(3) 教師の指導（問 18、問 19、問 20）（図 2）

ダンス授業で「運動のコツやポイントを指導しているか」の質問に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた「肯定群」は 60 名（欠損値 5 名）（98.4%）であり、「文科委託 26」の 91.5%、「文科委託 27」の 91.6%より、高い値を示した。ダンス授業で「生徒をほめるようにしているか」の質問に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた「肯定群」は 61 名（欠損値 4 名）（98.4%）であり、「文科委託 26」では 97.2%が、「文科委託 27」では 97.4%が肯定群である。ダンス授業で「ていねいに教えようとしているか」の質問では、「そう思う」「ややそう思う」と答えた「肯定群」は 54 名（欠損値 6 名）（90.0%）である。「文科委託 26」では 90.2%が、「文科委託 27」では 89.4%が肯定群である。

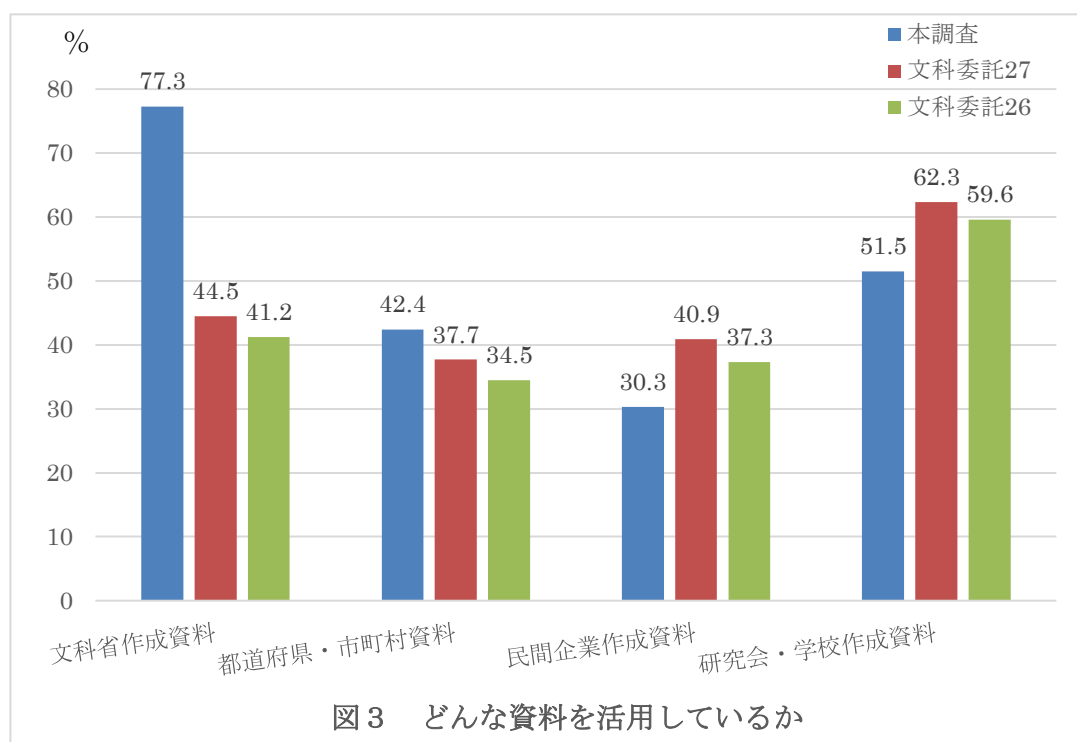
以上の結果から、すべてにおいて高い値を示しているものの、ていねいに教えることより、コツやポイントを教え、ほめるようにしていることが明らかになった。



(4) どんな資料を活用しているか (問 21：複数回答) (図 3)

「文科省作成資料」51名(77.3%)、「文科委託26」41.2%、「文科委託27」44.5%。「研究会・学校作成資料」34名(51.5%)、「文科委託26」59.6%、「文科委託27」62.3%。「都道府県・市町村資料」は28名(42.4%)、「文科委託26」34.5%、「文科委託27」37.7%。「民間企業作成資料」20名(30.3%)、「文科委託26」37.3%、「文科委託27」40.9%である。

本調査では、「文科省作成資料」と「都道府県・市町村資料」の活用のが、「文科委託26」「文科委託27」の数値を上回った。「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」学校質問の調査では、「文科省作成資料」の指導資料集を知らない先生もおられたが、約8割の先生が活用されていることから、広く周知されたことが伺える。また、本調査では平均すると2種類以上の資料を参照してダンス授業に臨んでいることがわかる。

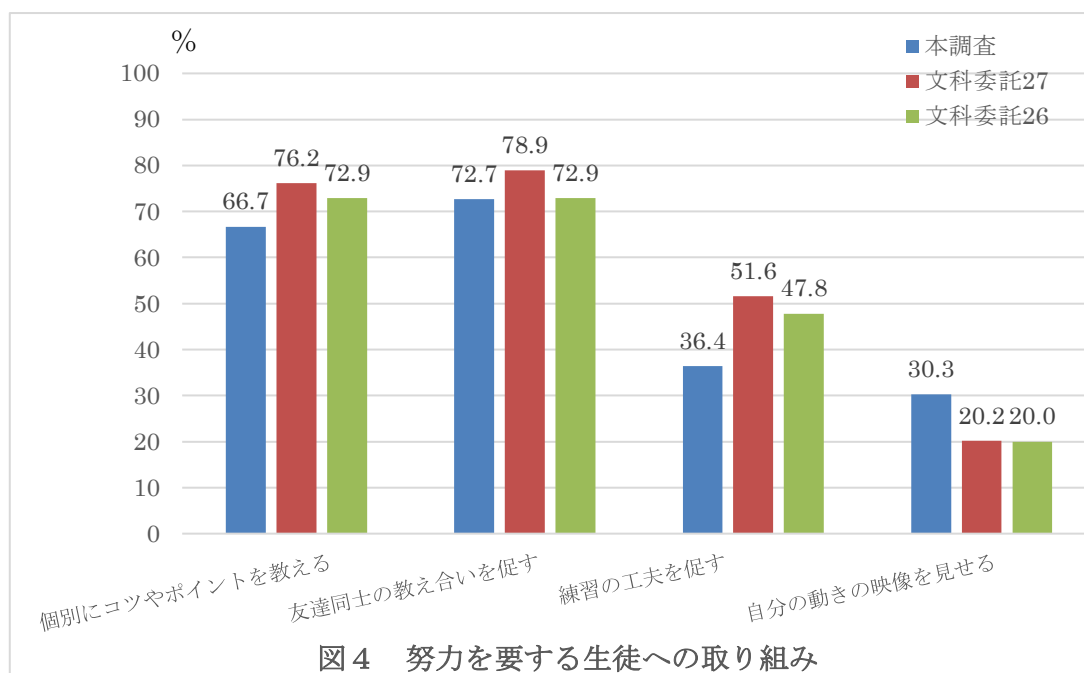


(5) 努力を要する生徒への取り組み (問 22：複数回答) (図 4)

「個別にコツやポイントを教える」は 44 名 (66.7%)、「友達同士の教え合いを促す」は 48 名 (72.7%)。「文科委託 26」では前者後者ともは 72.9%、「文科委託 27」では 76.2%、後者は 78.9%であり、本調査が「文科委託 26」「文科委託 27」より低い値である。「練習の工夫を促す」は 24 名 (36.4%)であり、「文科委託 26」では 47.8%、「文科委託 27」51.6%。

「自分の動きの映像を見せる」は 20 名 (30.3%)であり、「文科委託 26」では 20.0%、「文科委託 27」20.2%である。

「自分の動きの映像を見せる」だけが、「文科委託 26」「文科委託 27」より高い値を示した。年々タブレット端末の導入が増え、容易に撮影ができるようになったことが、要因の一つではないだろうか。



3. ダンス授業の指導実態

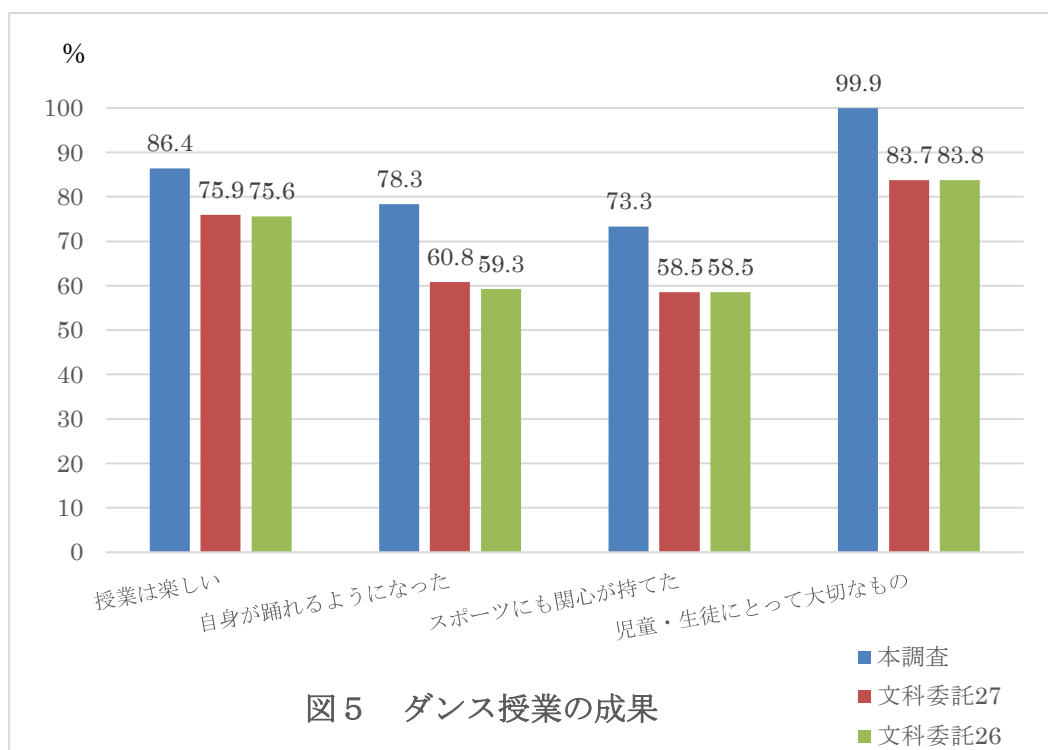
(1) ダンス授業の成果（問 23、問 24、問 25、問 26）（図 5）

「ダンスの授業はやっていて楽しいですか」の質問に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた「肯定群」は 57 名（欠損値 5 名）（86.4%）、「文科委託 26」では 75.9%、「文科委託 27」75.6%。「ダンスを経験してスポーツにも関心が持てたか」の質問に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた「肯定群」は 44 名（欠損値 6 名）（73.3%）。「文科委託 26」「文科委託 27」とも 58.5%である。

「ダンス授業を通して自身が踊れるようになったか」の質問に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた「肯定群」は 47 名（欠損値 6 名）（78.3%）、「文科委託 26」59.3%、「文科委託 27」60.8%。

「ダンスは生徒にとって大切なものであるか」の質問に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた「肯定群」は 61 名（欠損値 5 名）（99.9%）、「文科委託 26」83.8%、「文科委託 27」83.7%である。

ダンス授業の成果すべての項目において、「文科委託 26」「文科委託 27」より高い値を示した。



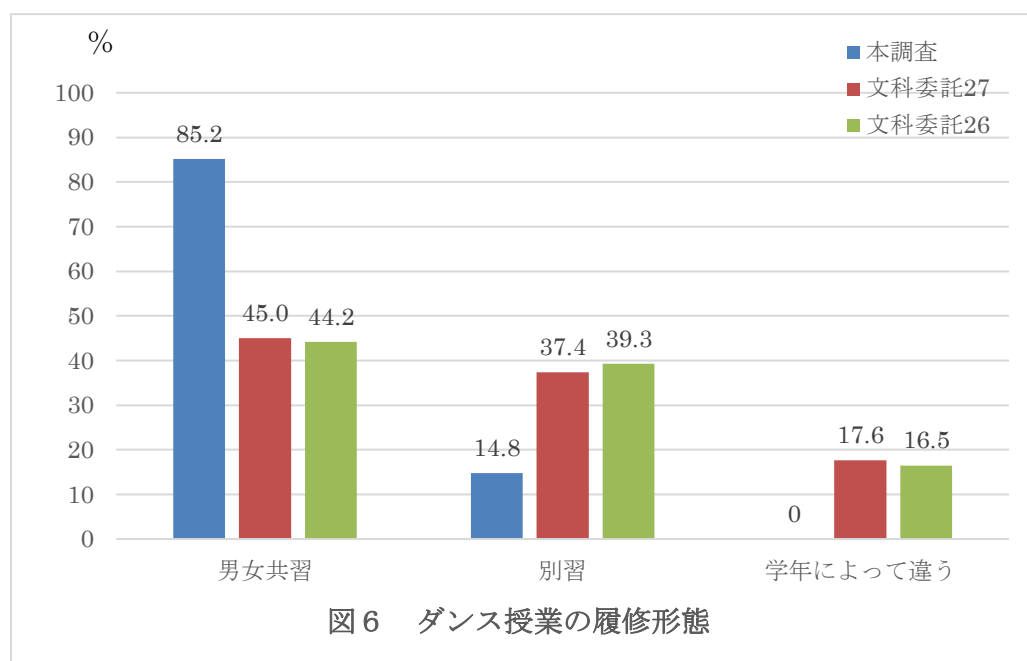
(2) ダンス授業の履修形態（問 27（図 6）、問 31（図 7））

「授業は男女共習か別習か」の質問に、「男女共習」で行っていると応えた教員は 52 名（欠損値 5 名）（85.2%）。「別習」は、9 名（14.8%）。「学年によって違う」は、0 名（欠損値は 5 名）（0%）である。

「文科委託 26」で「男女共習」で行っていると応えた教員は 44.2%、「別習」39.3%、「学年によって違う」16.5%。

「文科委託 27」で「男女共習」で行っていると応えた教員は 45.0%、「別習」37.4%、「学年によって違う」17.6%。

以上のことから、ダンスは「男女共習」、「別習」、「学年によって違う」の順で多いことがわかった。

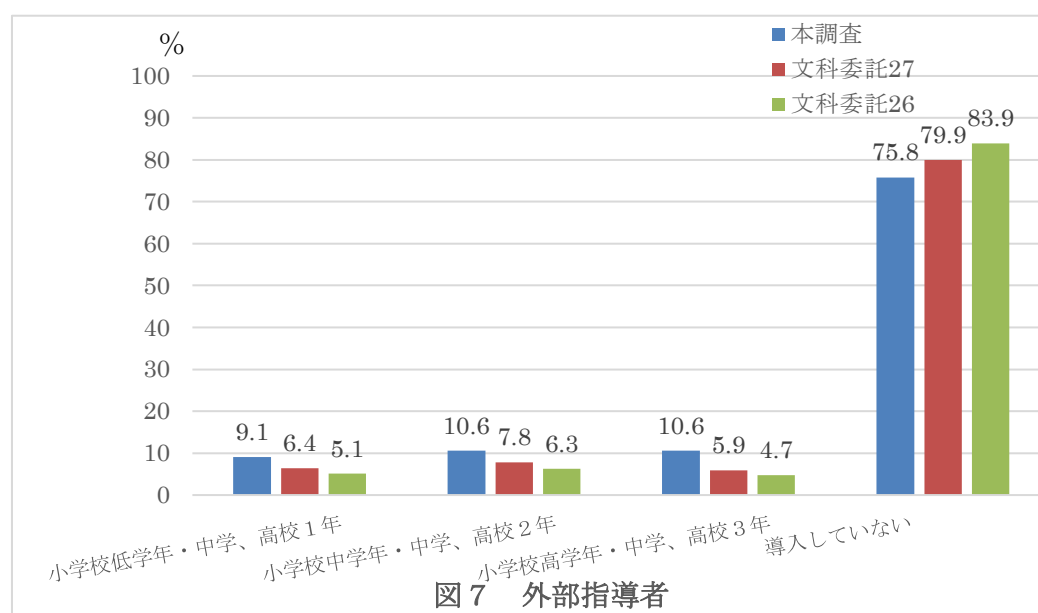


次に、「ダンス授業に外部指導者を導入している学年」を複数回答可で聞いたところ、「小学校低学年・中学1年・高校1年」では6名(9.1%)。「小学校中学年・中学2年・高校2年」は7名(10.6%)。「小学校高学年・中学3年・高校3年」は7名(10.6%)。「まったく導入していない」は、50名(75.8%)であった。

「文科委託26」で「小学校低学年・中学1年・高校1年」では5.1%。「小学校中学年・中学2年・高校2年」は6.3%。「小学校高学年・中学3年・高校3年」は4.7%。「まったく導入していない」は83.9%であった。

「文科委託27」で「小学校低学年・中学1年・高校1年」では6.4%。「小学校中学年・中学2年・高校2年」は7.8%。「小学校高学年・中学3年・高校3年」は5.9%。「まったく導入していない」は73.9%であった。

どの学年とも1割前後であり、必修化が完全実施されても、外部指導者の導入はあまり行われていないが、年々増えてはいると考えられる。



(3) ダンス3領域の授業内容(問28、問29、問30:複数回答可)(図8)

中学校のダンスは「創作ダンス・現代的なリズムのダンス・フォークダンス」3つの領域があり、各内容とも質問の選択肢の初めに提示した項目が、学習指導要領や解説に載っている基本的な内容である。この質問項目が本研究では一番知りたい項目である。

「創作ダンス」の授業内容では、「即興的に表現する」と答えた教員は36名(54.5%)、「文科委託26」31.8%、「文科委託27」34.6%。「簡単な作品創作」教員37名(56.1%)、「文科委託26」58.0%、「文科委託27」64.4%。「発表・鑑賞」教員31名(47.0%)、「文科委託26」50.6%、「文科委託27」54.3%。「体育 祭や地域で踊る」教員18名(27.3%)「文科委託26」26.7%、「文科委託27」31.3%。である。

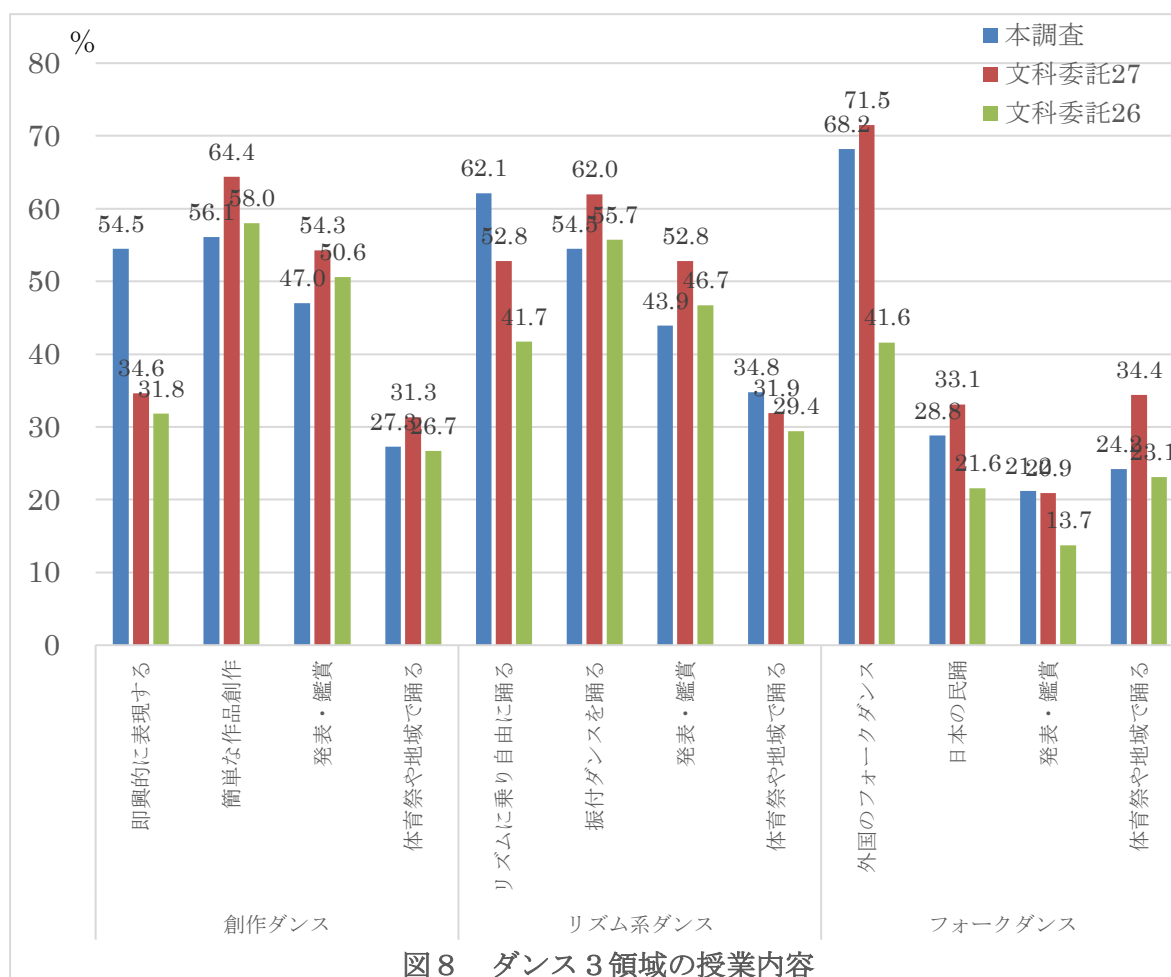
「簡単な作品創作」は6割以上が指導しており、次いで「即興的に表現する」「発表・鑑賞」「体育祭や地域で踊る」の順である。創作ダンスは、簡単な作品創作をして、発表する流れが多く取られていることがわかる。

「リズム系ダンス」の授業内容では「リズムに乗り自由に踊る」と答えた教員は41名(62.1%)、「文科委託26」41.7%、「文科委託27」52.8%。「振付ダンスを踊る」は教員36名(54.5%)、「文科委託26」55.7%、「文科委託27」62.0%。
振付ダンスといっても、教師の振付か、生徒たちの振付か、それともDVDの映像の振り移しなのかは分からない。「発表・鑑賞」は教員29名(43.9%)、「文科委託26」46.7%、「文科委託27」52.8%。「体育祭や地域で踊る」は教員23名(34.8%)、「文科委託26」29.4%、「文科委託27」31.9%。

「リズム系ダンス」は「リズムに乗り自由に踊る」「振付ダンスを踊る」「発表・鑑賞」「体育祭や地域で踊る」の順であった。
創作ダンスよりも、基礎基本を押さえた指導がされていると考えられる。

「フォークダンス」の授業内容については「外国のフォークダンス」と答えた教員は45名(68.2%)、「文科委託26」41.6%、「文科委託27」71.5%。「日本の民踊」は教員19名(28.8%)、「文科委託26」21.6%、「文科委託27」33.1%。「発表・鑑賞」は教員14名(21.2%)、「文科委託26」13.7%、「文科委託27」20.9%、「体育祭や地域で踊る」は教員16名(24.2%)、「文科委託26」23.1%、「文科委託27」34.4%。

「外国のフォークダンス」が約7割であり、「創作ダンス」「リズム系ダンス」に比べると、「発表・鑑賞」「体育祭や地域で踊る」を行っていないことがわかった。



4. 柔道授業の指導実態

以下は、有効数94名のうち柔道授業の経験がある学校体育担当指導主事48名の集計結果である。

(1) 柔道授業の成果（問 32、問 33、問 34、問 35）（図 9）

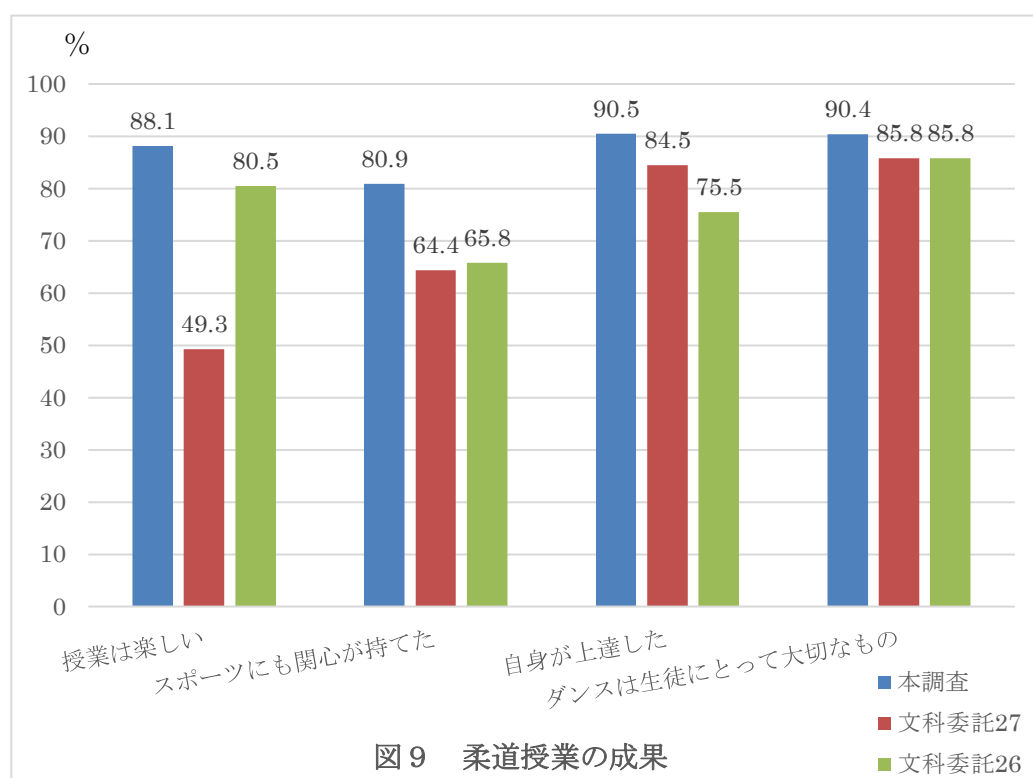
「柔道の授業はやっていて楽しいですか」の質問に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた「肯定群」は37名（欠損値6名）（88.1%）、「文科委託26」80.5%、「文科委託27」79.3%である。

「柔道の授業を通して自身が上達したか」の質問では、「そう思う」「ややそう思う」と答えた「肯定群」は38名（欠損値6名）（90.5%）、「文科委託26」75.5%、「文科委託27」84.5%である。

「柔道を経験してスポーツにも関心が持てたか」の質問に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた「肯定群」は34名（欠損値6名）（80.9%）、「文科委託26」65.8%、「文科委託27」64.4%である。

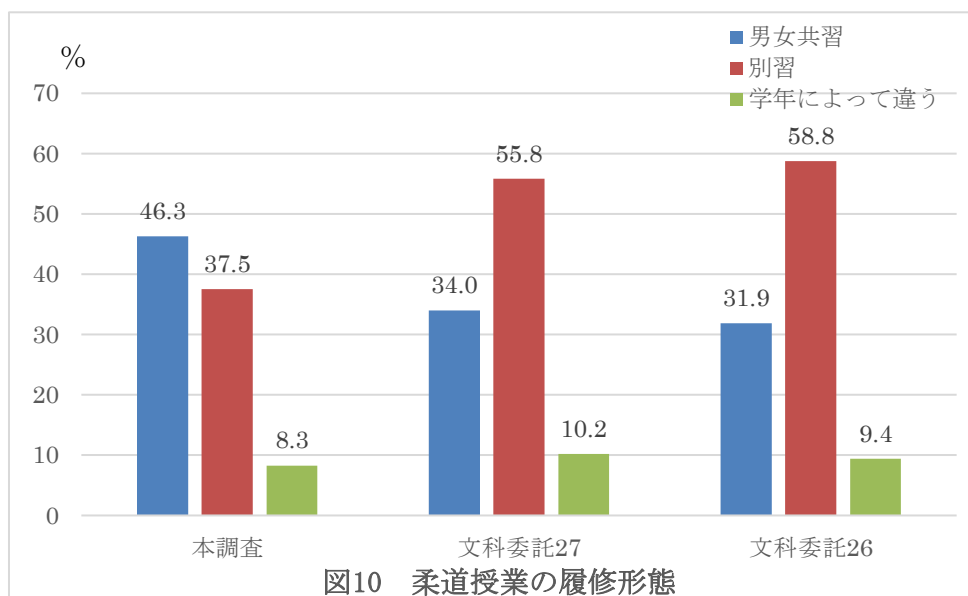
「柔道は生徒にとって大切なものであるか」の質問に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた教員側の「肯定群」は38名（欠損値6名）（90.4%）、「文科委託26」85.8%、「文科委託27」85.8%である。

以上の結果より、「柔道の授業を通して自身が上達した」この割合がダンスよりも高い。その背景には、柔道指導経験者は約5割で、その多くが柔道得意としているのに比べ、ダンス経験者とダンス得意群が約2割のため、柔道の指導の成果を肯定的に捉えていると推測される。



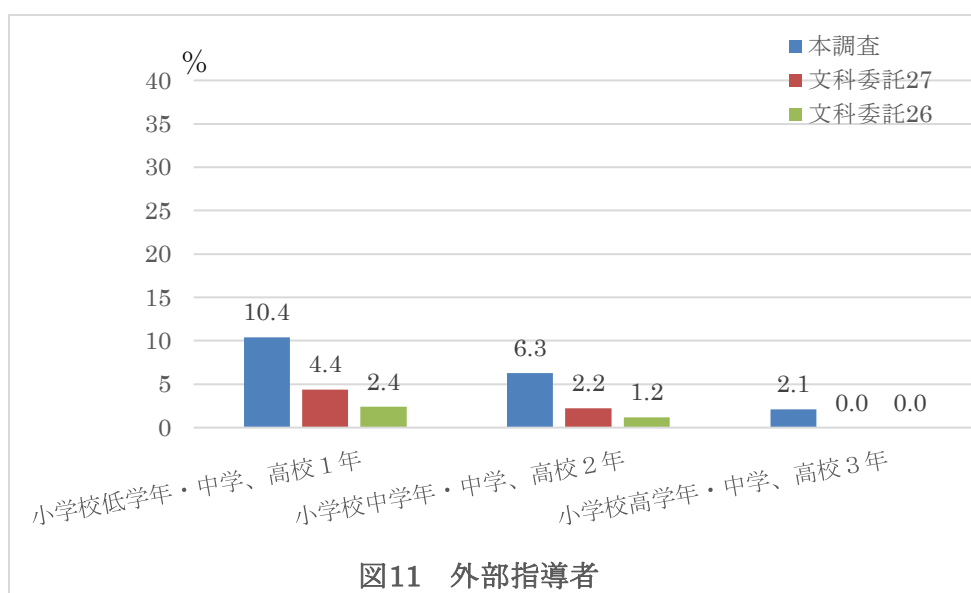
(2) 柔道授業の履修形態（問 36（図 10）、問 42（図 11））

「授業は男女共習か別習か」の質問に、「男女共習」で行っていると応えた教員は 19 名（46.3%）、「文科委託 26」31.9%、「文科委託 27」34.0%。「別習」は、教員は 18 名（37.5%）、「文科委託 26」58.8%、「文科委託 27」55.8%。「学年によって違う」は、教員は 4 名（8.3%）、「文科委託 26」9.4%、「文科委託 27」10.2%、欠損値 7 名である。



次に、「柔道授業に外部指導者を導入している学年」を教員に聞いたところ、「中学 1 年」では 5 名（10.4%）、「文科委託 26」2.4%、「文科委託 27」4.4%。「中学 2 年」は 3 名（6.3%）、「文科委託 26」1.2%、「文科委託 27」2.2%。「中学 3 年」は 1 名（2.1%）、「文科委託 26」0%、「文科委託 27」0%である。「外部指導者を導入していない」と答えた教員は 36 名（75.0%）である。

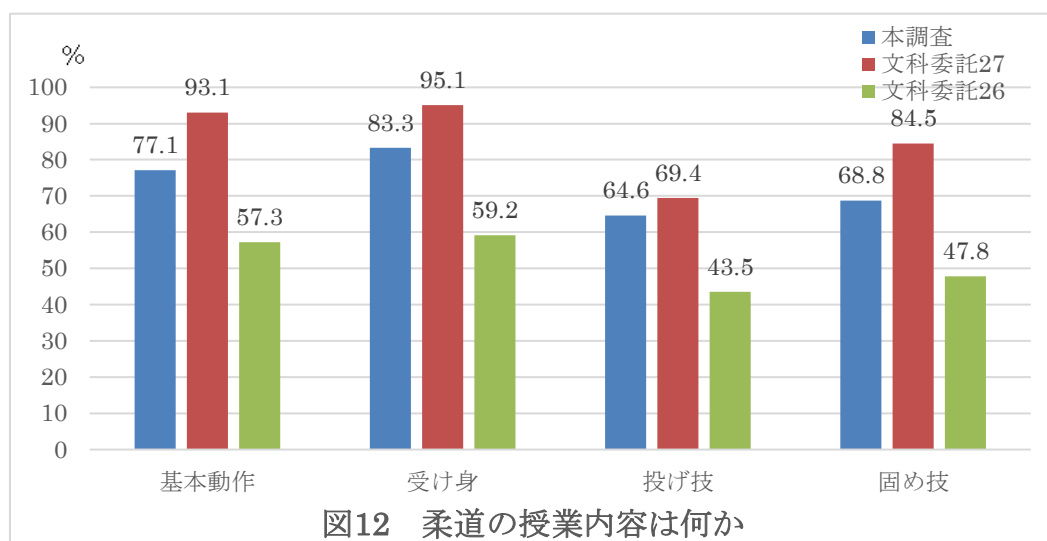
外部指導者の導入はほとんど行っていないことがわかるが、年々少しずつ増えてきていることがわかる。



(3) 柔道の授業内容（問 37、問 38、問 39、問 40、問 41、問 42：複数回答）（図 12）

選択肢の初めに提示した項目は、学習指導要領や解説に載っている基本的な内容である。柔道の授業内容は何かの問いに、「基本動作」は 37 名（77.1%）、「文科委託 26」57.3%、「文科委託 27」93.1%。「受け身」は 40 名（83.3%）、「文科委託 26」59.2%、「文科委託 27」95.1%。「投げ技」は 31 名（64.6%）、「文科委託 26」43.5%、「文科委託 27」69.4%。「固め技」は 33 名（68.8%）、「文科委託 26」47.8%、「文科委託 27」84.5%である。

基本的な内容の「基本動作」と「受け身」は約 8 割の教員が指導しており、続いて「固め技」「投げ技」の順であった。



次に、「基本動作」「受け身」「投げ技」「固め技」の具体的内容を聞いた（図 13）。

「基本動作」の授業内容については「姿勢と組み方」は 38 名（79.2%）、「文科委託 26」60.4%「文科委託 27」97.2%、「進退動作」は 24 名（50.0%）、「文科委託 26」30.2%、「文科委託 27」42.3%。「崩し」は 31 名（64.6%）、「文科委託 26」55.3%、「文科委託 27」60.4%である。

本調査でも、基本中の基本である「姿勢と組み方」、次いで「崩し」を重視していることがわかる。

「受け身」の授業内容については「前回り受け身」は 37 名（77.1%）、「文科委託 26」55.3%、「文科委託 27」89.5%。「横受け身」は 39 名（81.3%）、「文科委託 26」58.8%、「文科委託 27」95.8%。「後ろ受け身」は 37 名（77.1%）「文科委託 26」59.2%、「文科委託 27」95.8%。「前受け身」は 25 名（52.1%）、「武道等指導 26」23.1%、「文科委託 27」36.4%である。

「投げ技」の授業内容については「支え技系（膝車から支え釣り込み足等）」は 35 名（72.9%）、「文科委託 26」34.9%、「文科委託 27」60.3%。「刈り技系（大外刈・大内刈・小内刈）」は 19 名（39.6%）、「文科委託 26」32.9%、「文科委託 27」56.6%。「まわし技系（体落とし・大腰）」は 34 名（70.8%）、「文科委託 26」36.9%、「文科委託 27」18.4%。「投げ技は教えていない」教員は 3 名（6.3%）、「文科委託 26」10.6%、「文科委託 27」18.4%である。

今回、「支え技系（膝車から支え釣り込み足等）」と「まわし技系（体落とし・大腰）」は7割以上が指導している。頭部の重篤事故は大外刈（刈り技系）であることから、「支え技系」「まわし技系」より行われていないと推察できる。

「固め技」の授業内容については「けさ固め」は40名（83.3%）、「文科委託26」57.6%、「文科委託27」96.4%。「横四方固め」は37名（77.1%）、「文科委託26」52.2%、「文科委託27」87.7%。「上四方固め」は20名（41.7%）、「文科委託26」36.5%、「文科委託27」60.1%。「縦四方固め」は9名（18.8%）、「文科委託26」10.6%、「文科委託27」18.1%である。

「けさ固め」「横四方固め」は約8割以上が指導している。

柔道授業の指導実態をまとめてみると、姿勢と組み方と崩し、受け身（後ろ受け身、横受け身、前回り受け身）を習得したあと、投げ技よりも固め技（けさ固め、横四方固め）を教える傾向が強いことがわかる。

固め技は、投げ技よりも怪我のリスクが少ない点、習得が容易な点、ミニゲーム（寝技のみで勝敗を決めるなど）がし易い点があげられる。そのため、寝技で慣れてから立ち技に移行していることが推察できる。

